

## 絵葉書に見る明治時代の三越

清水一郎(73年入社)

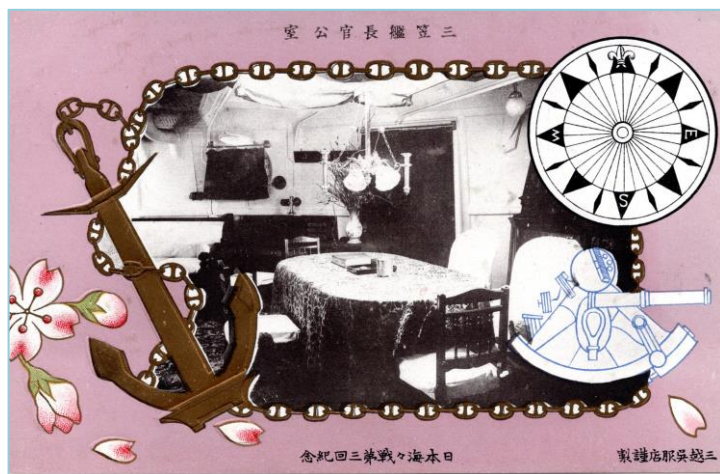
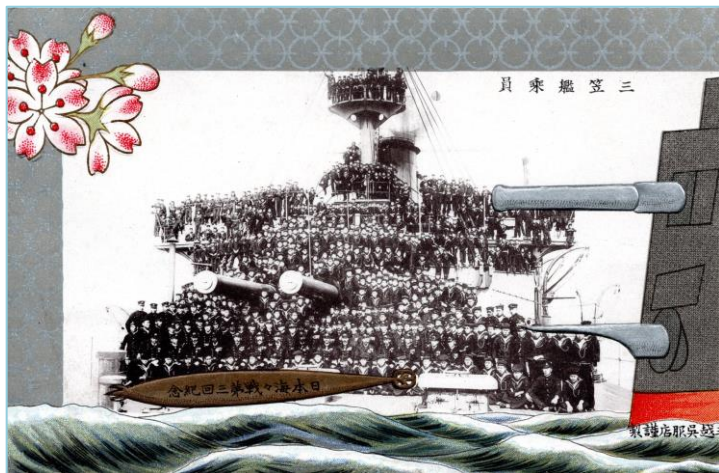
明治時代の三越は1904年(明治37年)の“デパートメントストア宣言”に向けて先進的な百貨店を目指していました。

それまで日本にはなかった“テイスト”という概念を具現化すべく様々な宣伝媒体を取り入れていきます。

その一つに“**絵葉書**”があります。葉書一枚に伝えるべき情報を盛り込むという現在の“DM”の役割を持っていました。

現役時代から古本屋を回り、集めた三越の絵葉書が約80枚、今回その中から何枚かの絵葉書をご紹介します。

ここにある3枚の絵葉書は、明治41年に日露戦争で活躍した戦艦**三笠**の遺族のために三越が製作したものです。“三越呉服店謹製”の文字が見えます。この絵葉書を海軍の伊地知彦次郎少将の挨拶文とともに遺族に送ります。

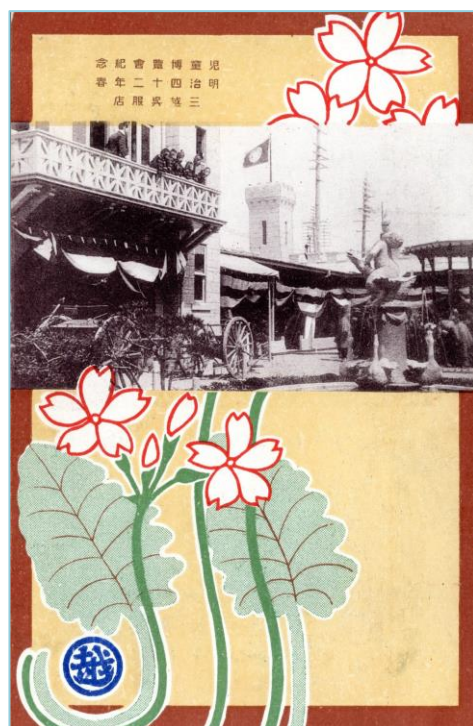


戦艦三笠 (Wikipedia)



明治42年4月、三越で画期的な催事が開催されました。“児童博覧会”です。  
これは子供の生活文化への関心が高まってきたことに着目した「流行会」の提案によるものでした。

会場は旧店舗跡地の広場で、子供たちの興味を引くような夢のある品々を展示したほか、外国の山や湖の模型、娯楽施設などを設置、また屋上では乗り物や熊など本物の動物が見られる動物園なども作られ連日多くの親子連れで賑わい、各方面から称賛の声が多く寄せられたため以後毎年行われることに。



1983年、明治の“児童博覧会”のエキスを受け継いだ“三越子ども大博覧会”を開催、この催事も夏休みの恒例祭事として数年間開催されました。

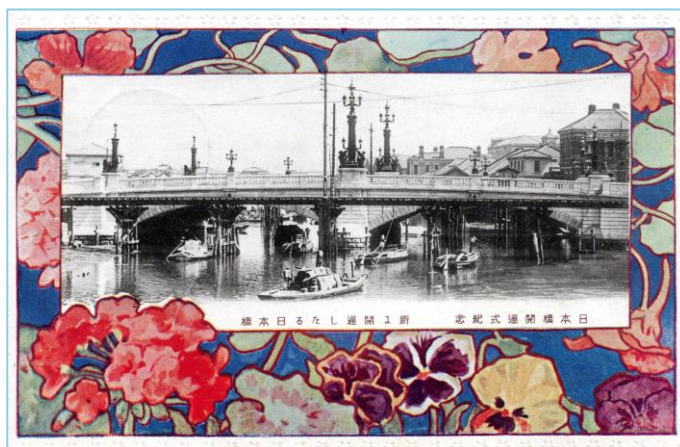
# ニュースあれこれ

日本橋通りの道路拡張に伴い、工事中であった日本橋が新装になって、明治44年4月3日に開通式が行われました。

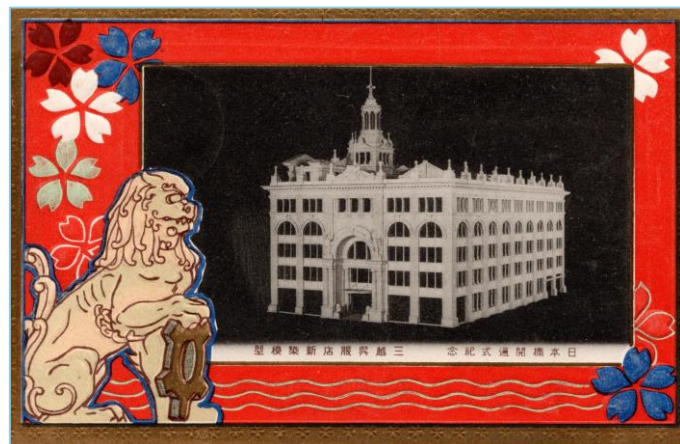
この開通を祝って作られたのがこの絵葉書。来店者に配るとともに店内では各種記念品の販売も行います。その日は恒例の児童博覧会を開催中であったこともあり、雨天にもかかわらず数十万人の人出があったと記されている。付近は雑踏と化し、店内も身動きもできない状態で、ついには入口を閉鎖する事態となったとか。

1603年に架けられた日本橋は、現在の橋が20代目、長さ49メートルの石造りのアーチ橋で、五街道の起点となっています。

この絵葉書には当日の消印が刻印されています。当時の切手は1銭5厘、そしてこの絵葉書にはエンボス加工がされているという手の込んだものでした。



よく見ると手前に木造の旧日本橋が残っています

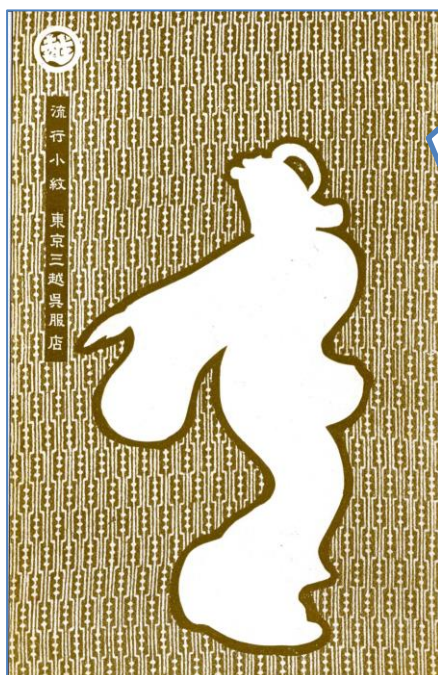


# ニュースあれこれ



明治期の三越が他の追随を許さなかったことのひとつが“宣伝”です。デザインから表現方法、効果的な媒体戦略まで、その後の三越に引き継がれる大きな財産を築きます。デザインは当時人気の日本画家などに制作を依頼、さらに杉浦非水など新進気鋭のアーティストを採用し、三越ならではの宣伝媒体スタイルを構築します。

これらの絵葉書を見てください。現在でも通用しそうな高いデザイン力が見て取れます。DMですから商品の訴求も大事、その点でも取り扱い商品がわかりやすくレイアウトされていてDMとしてだけでなくひとつのアートとしても優れたものだと思います。



実にシンプルなDMです。  
白く抜いた女性の背景にイチオシの流行小紋柄を配してストレートな表現で顧客にアピールしている。実に見事なデザインです。  
現代のイメージ広告の先駆的作品だと思います。



## ニュースあれこれ

この2枚の絵葉書は、1907年(明治40年)、新たにオープンした三越呉服店大阪支店の開業を記念(記念)して制作されたものと思われます。前身の越後屋は江戸開業から24年後の1691年に大阪高麗橋に両替店を併設して開設されました。

以後2005年にその幕を下ろすまで実に314年の長きにわたってこの地で営業を続けてきたのです。

これはポスターですが、春の売り出し用に、合成写真を使ったユニークなポスターです。周囲の7人はいずれも当時美人中の美人ともてはやされた芸者。中央がこの7人をモンタージュにより合成した「七美人重ね写真」で、これこそ理想的

日本美人と称している。数多い美人画ポスターの中でも異彩を放つ作品です。



### Topic



1917年(大正6年)に落成した大阪店の建物を解体したところ、実に珍しい建築様式で建てられていることが判明しました。

それは鉄筋の代用として鉄道用の“レール”を使用して作られたものでした。

“幻の双頭レール”と言う上下が同じ形をしているので最初に開業した東海道線のレールを使用し、その数なんと500本。

超高層ビルの源流とも言える貴重な建物だったようです。最初に発見した学者は「これを見た時鳥肌が立った」と語っています。

素晴らしい建物だったのですね。

